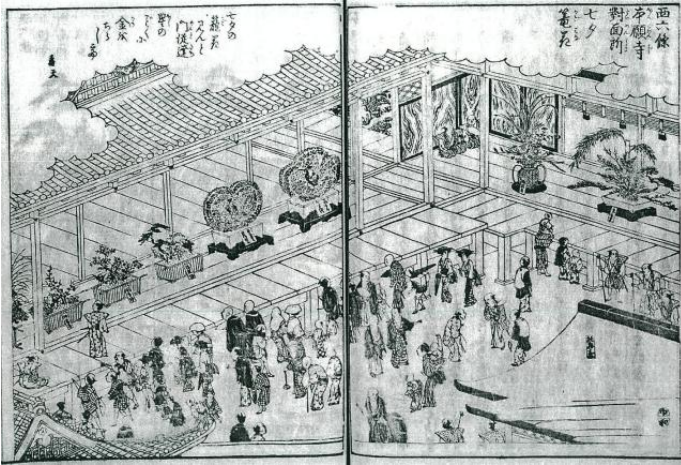


◆本願寺献菊展のはじまり◆



江戸時代「七夕籠花」の様子(書院対面所)

本願寺献菊展は、毎年 11 月 22 日・23 日に行います「全国門徒総追悼法要（秋の法要）」に際し、^{きくえいかい}京都菊栄会より献花される菊花をもって開催しており、本年は第 72 回目の開催を迎えることと

なりました。

本願寺の花の行事といえば、古くは江戸時代より「七夕籠花^{かごはな}（本願寺籠花）」という行事があり、七夕の日に、寺院や御堂衆（本願寺における御堂での仏事に従事する僧侶）が、思い思いに趣向を凝らしたデザインの花を持ち寄り、御堂や書院の縁側に飾ったと言われます。古い俳諧歳時記^{はいかいさいじき}に、「本願寺籠花」は季語に数えられるほどでありました。

しかし、明治初年にこの行事は廃止され、その後、この流れを汲^くんで、昭和に入り「京都菊花会^{きつかがい}」が秋に菊の展示を始めましたが、これも太平洋戦争で廃止となりました。

戦後しばらくして、昭和 29 年に菊の展示を再開し、「京都菊栄会^{きくえいかい}」がこれを引継ぎ、現在にいたっております。

本願寺参拝教化部